

<b>「書道 I」</b>	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	普通科 第1学年1～4組

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 書道における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てます。 2 それと同時に書を楽しむ態度を通して感性を豊かにし、様々な場面に対応する書写能力を高めます。 3 1と2の学習を通して自己を主体的に表現する能力と書的美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていきます。
使用教科書・副教材等	「書 I」 (教育図書)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学習内容	月	学習のねらい	備 考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)
第 1	1 書へのいざない ・書に親しもう ・古典とその臨書 ・用具・用材 ・執筆法・用筆法	4	書分野、古典とその臨書、用具、執筆法・用筆法について知り、学習の意義とその方法を理解します。 (※「臨書」とは古典を手本として習うことです。)	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)  芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。
	2 楷書の学習 ・楷書の古典に学ぶ	5	漢字の楷書の古典に基づく学習により書の多様な表現の可能性に触れます。 代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について作者や時代背景などの知的理解を経て、基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を臨書学習により習得します。 これらの活動を総合し各古典の特徴を把握し表現の方法を学びます。	世界史の学習に関連します。 各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。

【課題・提出物等】

- 1 毎時間の学習課題は提出します。欠席するとその分の提出物がなくなります。  
 2 欠席した時の分は、次の授業の前までに提出すれば、提出物として受け取ります。  
 3 毎時間の最後に「自己評価」を行い、その日の取り組みを振り返ります。

【第1学期の評価方法】

- 1 提出作品、授業への遅刻欠席、授業内で行われる小テスト、用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。  
 2 学期全体の評価は提出作品・小テストで80～90%、授業への参加状況(欠席・忘れ物・取り組み等)で10～20%の配分で行います。  
 3 提出作品については、漢字仮名交じりの書においては意図した表現に近づくことが出来たか、また漢字の書(臨書)においては対象となる古典の特徴を表現出来たかが評価の基準となります。  
 4 皆さんが考えている字の上手下手とは違いますので、古典を素直に見る目が大切になります。

第 4	行書の学習 ・行書の特徴	9	行書の特徴について理解を深めます。 代表的な行書の古典を鑑賞し、作者や時代背景等に関する知的理解を経て臨書学習により各古典の特徴を把握することにより行書の基本的な用筆法を習得します。	実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。
	・蘭亭序の鑑賞と臨書	10	蘭亭序を全臨します。	

		11	学習した楷書または行書の古典を題材とし習得した技法を生かして創作を行います。		
		12			
<p>【課題・提出物等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎時間の学習課題は提出します。欠席するとその分の提出物がなくなります。</li> <li>2 欠席した時の分は、次の授業の前までに提出すれば、提出物として受け取ります。</li> <li>3 毎時間の最後に「自己評価」を行い、その日の取り組みを振り返ります。</li> <li>4 蘭亭序の課題は数時間をかけて行います。</li> </ol>					
<p>【第2学期の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 提出作品、授業への遅刻欠席、授業内で行われる小テスト、用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。</li> <li>2 学期全体の評価は提出作品・小テストで80～90%、授業への参加状況（欠席・忘れ物・取り組み等）で10～20%の配分で行います。</li> <li>3 提出作品については漢字の書（臨書）においては対象となる古典の特徴を表現出来たか、創作作品においては自分の意図したように表現することが出来たかが評価の基準となります。</li> <li>4 蘭亭序の臨書は数時間をかけて行いますので、全臨課題を提出できない場合には、かなり厳しい評価になります。</li> </ol>					
第 3 学 期	5	仮名の書の学習 ・仮名の成立と発達 ・仮名の種類 ・平仮名 ・変体仮名 ・連綿 ・蓬萊切、高野切第三種の鑑賞と臨書	1	我が国独自の文字である仮名について成立過程と字源について理解を深めます。 平仮名を中心とした上代様仮名の筆使いに慣れ基本的な用筆法を習得します。 仮名の基本的な古典の鑑賞と臨書を経験します。	漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。 仮名独自の美しさを感じます。  1年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組みます。
	6	漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字的・仮名的表現 ・古名跡を応用して書く ・用筆・運筆および用具用材の工夫 ・文字の大きさ、配置の工夫	2	今までの漢字及び仮名の古典の学習を基にその表現を応用した漢字仮名交じりの書の創作を行います。 詩文、形式、用具・用材、構成など工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性を表現する最良の方法を模索します。	
			3		
<p>【課題・提出物等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎時間の学習課題は提出します。欠席するとその分の提出物がなくなります。</li> <li>2 欠席した時の分は、次の授業の前までに提出すれば、提出物として受け取ります。</li> <li>3 毎時間の最後に「自己評価」を行い、その日の取り組みを振り返ります。</li> </ol>					
<p>【第3学期の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 提出作品、授業への遅刻欠席、授業内で行われる小テスト、用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。</li> <li>2 学期全体の評価は提出作品・小テストで80～90%、授業への参加状況（欠席・忘れ物・取り組み等）で10～20%の配分で行います。</li> <li>3 提出作品については仮名の書の臨書においては対象となる古典の特徴を表現出来たか、仮名・漢字仮名交じりの書の創作作品においては自分の意図した表現することが出来たかが評価の基準となります。</li> </ol>					
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>下記の4つの観点から評価した1学期、2学期、3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。</p>					

確かな学力を身に付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。</li> <li>・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といった様々な要素について考え分析する姿勢が大切です。</li> </ul>
-----------	---

けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。</li> <li>・創作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具などを積極的に選択していきましょう。</li> </ul>
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を落ち着ける環境でなければ良い書は書けません。互いの上達のためにも、授業中の私語は慎んでください。</li> <li>・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。</li> <li>・毎時間の課題は提出することが基本です。「自分自身が納得いくものが書けなかったから」と提出しないことのないようにして下さい。納得が行くまで書きたい人は申し出てくれれば、時間を設定します。</li> <li>・とにかく「休まず」きちんと取り組むことです。</li> </ul>

## (2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字仮名交じりの書を通して、書写能力を高め、生活に即した書表現に関心を持ち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。</li> <li>・漢字の書を通して、書的美しさに関心を持ち、意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。</li> <li>・仮名の書を通して、日本の伝統的な書之美に関心を持ち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。</li> <li>・鑑賞活動を通して、書を愛好し日常生活における書への関心を高め、意欲的、主体的にその美しさを味わおうとしているか。</li> <li>・書活動全体を通して、意欲的に取り組んでいるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の仕方や態度(出欠・遅刻・忘れ物・参加状況等)</li> <li>・「自己評価表」の記入状況</li> <li>・ノートの整理状況</li> <li>・提出作品</li> </ul>
芸術的な感受や表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を豊かにし、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出作品</li> <li>・「自己評価表」の記入状況</li> </ul>
創造的な表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字仮名交じりの書を通して自己を主体的に表現する能力を伸ばし、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けているか。</li> <li>・漢字の書を通して、自己を主体的に表現する能力を伸ばし、基礎的な技能を身に付けているか。</li> <li>・仮名の書を表現するために必要な仮名の線の特質を理解し、基礎的な技能を身に付けているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出作品</li> <li>・「自己評価表」の記入状況</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自己評価表」の記入状況</li> <li>・ノートやプリント</li> </ul>

## 3 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学までの書写と異なり、書道の中にはいろいろな「書」があることを知ってほしいと思います。「書」に親しみ、筆などの用具の魅力を感じてください。</li> <li>・授業時間の中での進歩、単元を通しての進歩、学期を通しての進歩、そして、1年間の学習を通しての進歩が感じられるような学習への取り組みを期待します。</li> <li>・書道Ⅰの学習を通して、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになることを希望します。</li> <li>・一般的な字の上手下手にとらわれず、「素直に物事を捉える目」を培ってください。</li> </ul>
--